

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日：2022年 9 月 30 日
- 事業名：困窮世帯に食の安全と地域の支援ネットワーク構築事業
- 資金分配団体：一般財団法人大阪府人権協会
- 実行団体：特定非営利活動法人ふーどばんく OSAKA

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
個人への緊急「食」支援を行う	増加する個人への緊急「食」支援を行うことにより自立支援相談窓口への誘導と緊急の問い合わせに対応する	現状を勘案し毎年50世帯へ緊急「食」支援を行う	2024年 2月29日	2021年度→59件 2022年度（現時点）→52件	2
自立支援相談窓口との連携	大阪府下の42市町村の生活困窮者自立支援相談窓口と協定を結び「食支援」が必要な方が速やかにふーどばんく OSAKA の食支援へと結びつける	2021年度は提携していない自治体へ周知を図り連携未実施の相談窓口と締結をめざす／現状16自治体→42自治体	2024年 2月29日	16自治体	3
情報提供の場を増やすためフードドライブ活動に取り組む事業者と連携して、当法人の学習や交流の場を設置する	フードドライブ活動の期間中に学習ツールであるチラシやポスターなどを設置、食支援が必要な方への方法や連絡先などを周知し行政窓口へと誘導をおこなう	現状の2団体から5団体の増加をめざす	2024年 2月29日	現時点5団体	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
常にマスクをして対応している。スタッフの健康管理に注意喚起をおこない、体の調子がすぐれない時は休暇を申し出てもらっている。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	緊急支援	東 憲一	スタッフ
内部	自治体との締結	森本範人	事務局長
内部	フードドライブ活動	森本範人	事務局長

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
「食支援」をおこなうことにより相談へ結びつけない方を早期に発見し誘導を図る	支援が必要な方に対し「食」支援という観点からアプローチをおこない転換する課題解決のための一つのツールとして活用	240 世帯の自立支援団体への誘導	2024 年 2 月 29 日	「食支援」については問合せも多く目標としていた数値も達成している。ただ、単に「食」支援をおこなうだけでなく、自治体窓口へ足を運ばせ抜本的な貧困対策を誘導することが大切。その相談者が継続的な支援を求められる場合、自治体だけでは解決できない問題については地域支援団体との連携が必要
生活困窮者支援相談窓口をはじめ大阪府下のどこに住んでいても「食」支	「食」支援が必要な方は「生活困窮」への誘導が必要な方が多く確かな支援が求められてお	2021 年度は提携していない自治体へ周知を図り連携未実施の相談窓口と締結をめ	2024 年 2 月 29 日	自治体との締結に向けた取り組みは、多くの時間を費やす結果となっている。現時点で、数件の自治体と締結に向け前向きな協議を進めているが、それも数カ月を費やしている。今後、取捨選択が必要とされるが粘り強くアプローチをかけていく。

援が受けることができる	り、必要なプランが適時適切に行うための「食」支援を通し他の支援とつなげていく	ざす／現状 16 自治体→42 自治体		また、締結しない自治体の地域でどのような支援対策が構築できるか、地域事情を勘案しながら模索する必要がある。
フードバンク活動の周知強化とふーどばんく OSAKA と連携する団体を強化する	「食」支援だけではなく支援する。応援団の強化に取り組み	「フードドライブ」やシンポジウム(1回)に取り組み情報発信へとつなげる	2024年2月29日	マスメディアに放映されることもあり、認知度向上につながった 講演依頼や小学校の社会見学などで利用されるなど関心を寄せられている

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	<ul style="list-style-type: none">・ 個人への食支援・ 身近な地域で生活困窮者が「支援連携団体」と出会え話せる関係になっているか・ 大阪府内全域の生活困窮者自立支援窓口の連絡先や担当者がわかり自団体の取り組みを知ったり理解してもらえているか・ 自団体のスタッフや既にボランティア希望者と話せる環境になっているか	適正	
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有			
組織基盤強化・ 環境整備			

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

③ 事前評価時には想定していなかった成果



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）